令和元年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第４号
（７月の発生予想）

令和元年　７月　１日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【水稲】

葉いもち	量：やや少ない 時期：遅い	①　現在まで未確認で、発生量は平年並。（±） ②　BLASTAM によるいもち病感染好適条件は、まだ広域に出現しておらず､例年に比べ出現頻度が低く時期が遅い。（－） ③　コシヒカリＢＬの作付けが多く､発病進展には抑制的に働く（－） ④　向こう１か月の降水量は多く､日照時間は少ないと予想されている。（＋）
紋枯病	量：やや多い 時期：並	①　前年の発生量は平年比やや多く､越冬菌核量は平年比やや多いと推定される。（±～＋） ②　現在、未確認で発生量は平年並。（±） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並､降水量は多いと予想されている。（±～＋）
稲こうじ病	感染量：やや少ない	①　前年の発生量は平年比やや少なく､伝染源量は平年比やや少ないと推定される。（±～－） ②　向こう１か月の降水量は多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 多発生地及び前年に規格外が発生したほ場では、薬剤防除を実施する。	
ニカメイチュウ	量：並 程度：少発生 時期：やや早い	①　６月下旬の被害株率は平年並。（±） ②　越冬世代の発蛾盛期は５月第６半旬頃で平年比やや早く､トラップ誘殺数は平年比多い地点もあるが全般に平年並～やや少ない。（±～－） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並､降水量は平年比多いと予想されている。（±～＋）
斑点米カメムシ類	量：並 時期：並	①　６月下旬の畦畔すくい取り調査では､アカヒゲホソミドリカスミカメ､アカスジカスミカメとも県全体の確認地点率、確認虫数は平年並。しかし、地域間で発生量の差が大きく､確認地点率はアカスジカスミカメでは下越、新潟、佐渡地域で平年比やや高～高く、アカヒゲホソミドリカスミカメでは下越、新潟地域で平年比やや高い。（±） ②　向こう１か月間の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 ①　水田周辺の畦畔や水田内の雑草管理を徹底し、斑点米カメムシ類の密度低減、水田内への侵入防止に努める。 ②　今後の水稲の出穂期予報に留意し、斑点米カメムシの多発地域及び前年に斑点米被害が多かったほ場では、品種ごとの適期防除に努める。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【水稲】（つづき）

セジロウンカ	量：並 時期：やや遅い	①　６月下旬調査では未確認。（±） ②　梅雨明けまでは飛来の可能性がある。（±）
ツマグロヨコバイ	量：やや多い 程度：少発生	①　６月下旬の株当最高寄生数は平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の平均気温はほぼ平年並みと予想されている。（±）
イネアオムシ （フタオビコヤガ）	量：並 程度：少発生	①　６月下旬の幼虫発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
コブノメイガ	量：並	①６月下旬調査では未確認、佐渡市のフェロモントラップでも 6 月 25 日現在未確認（±） ②　梅雨明けまでは飛来の可能性がある。（±）
コバネイナゴ	量：多 程度：中発生	①　６月下旬の発生量は平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

【大豆】

アブラムシ類 （褐斑粒）	量：並 程度：少発生	①　６月下旬のジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は平年比やや少ない。その他アブラムシ類の発生量は平年比やや多い。（±） ②　向こう１か月の降水量は多いと予想されている。（－）

【なし】

黒斑病	量：並 程度：少発生 （発病葉率１～５%）	①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
黒星病	量：多い 程度：少発生 （発病葉率１～５%）	①　６月下旬の発生量は平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　発病した葉、果実は二次伝染源となるため、見つけ次第剪除して土中深く埋める等適切に処分する。 ②　防除効果を高めるため、薬剤散布は発病部位を除去した後に行う。 ③　スピードスプレーヤーによる薬剤散布は全列散布を行い、可能であれば縦横散布で防除する。園地周縁部等の薬剤のかかりにくい場所は補正散布を行う。 ④　本病は曇雨天が続くと蔓延するので、散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。 ⑤　耐性菌の発生を抑制するため、同一系統薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤を交互使用する。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【なし】つづき

セイヨウナシ 褐色斑点病	量：やや多い 程度：少発生 （発病葉率１～５%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　発病葉、発病果及び発病枝は二次伝染源となるので、見つけ次第剪除して土中深く埋める等適切に処分する。 ②　梅雨期間の降雨は感染に好適であるため、散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。	
ナシヒメシンクイ	量：並 程度：少発生 （被害果率１～２%） 時期：やや早い （第２世代成虫の発蛾盛期は７月第５半旬頃）	①　６月下旬現在、被害果は認めず平年並。（±） ②　フェロモントラップ誘殺数は平年比多い。（＋） ③　第２世代成虫の発生時期は、第１世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から平年比やや早いと推定される。 ④　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 ①　被害果は見つけ次第摘除して土中深く埋める等、適切に処分する。 ②　防除時期は誘殺盛期直後である。	
ハマキムシ類	量：並 程度：少発生 （被害葉率１～15%） 時期：やや早い（リンゴコカクモンハマキ第１世代成虫の発蛾盛期は７月第５半旬頃）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　フェロモントラップの誘殺数は新潟地域で平年並、下越及び中越地域では平年比多い。（±～＋） ③　リンゴコカクモンハマキの第１世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から平年比やや早いと推察される。 ④　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 第２世代幼虫の防除時期は、第１世代成虫誘殺ピークの１４日後である。	
アブラムシ類	量：やや少ない 程度：少発生 （寄生葉率１～５%）	①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（－）
ハダニ類	量：やや少ない 程度：少発生 （寄生葉率１～15%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量は平年比多い（－）と予想されている。
	【防除上の留意事項】 ①　ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、園内をよく観察し発生初期に防除を行う。 ②　薬剤抵抗性ハダニ類の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【なし】つづき

コナカイガラムシ類	量：並	①　６月下旬にコナカイガラムシ類の発生を認めず平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 ①　樹皮の隙間、窪み、枝の切り口等をよく観察し、卵のうや虫の寄生が認められた場合は、ブラシ等でこすり落とす。 ②　有効積算温度から推定されるクワコナカイガラムシ第１世代幼虫の防除時期は、７月第３～第５半旬である。	
果樹カメムシ類	量：並	①　６月下旬現在、被害果は認めず平年並。（±） ②　予察灯での誘殺数は平年並～やや少ない。（±～－） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い 程度：少発生 （発病葉率１～10%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　収穫期が近づき薬剤防除が困難となることから、以下の耕種的防除を実施する。 ・　本病は風雨により発病が助長されるため、防風網の設置、補修等、防風対策を行う。 ・　新梢に発生する夏型枝病斑は、当年の重要な伝染源となるため見つけ次第発病枝ごと剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。 ②　次作における伝染源量を減らすため収穫後の秋期防除を必ず実施する。	
灰星病	量：やや多い 程度：少発生 （発病果率１～５%）	①　６月下旬に果実発病が認められた。（＋） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　発病果は見つけ次第剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。 ②　重点防除期は収穫 20 日前頃～収穫期である。	
モモハモグリガ	量：やや少ない 程度：少発生 （被害葉率１～15%） 時期：並 （第２世代成虫の発蛾盛期は６月第６半旬頃）	①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　フェロモントラップへの誘殺数は平年比やや少ない。（－） ③　第２世代成虫の発生時期は、第１世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から平年並と推定される。 ④　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 第３世代幼虫の防除時期は７月上旬と推定される。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【もも】つづき

ナシヒメシンクイ	量：並 時期：やや早い （第２世代成虫の発蛾盛期は７月第５半旬頃）	①　６月下旬の新梢被害は平年比やや少ない。（－） ②　フェロモントラップ誘殺数は平年比多い～やや多い。（＋） ③　第２世代成虫の発生時期は、第１世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から平年比やや早いと推定される。 ④　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 被害新梢（心折れ）や被害果実は見つけ次第剪除して幼虫密度を減らす。	
果樹カメムシ類	量：並 程度：少発生 （被害果率１～２%）	①　６月上旬に被害果を認めたが、発生量は平年並。（±） ②　予察灯での誘殺数は平年並～やや少ない。（±～－） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

【ぶどう】

晩腐病	発生量：並 感染時期：並～やや早い	①　前年の発生量は平年比やや少なく、越冬伝染源量も平年比やや少ないと推察される。（－） ②　６月下旬の発生は未確認で平年並。（±） ③　胞子飛散時期（４月１日起算、1400 日度）は平年並～やや早い６月第５～第６半旬と推定される。 ④　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 重点防除時期は、６月中旬～７月中旬である。	
べと病	量：やや多い 程度：少発生 （発病葉率１～10%）	①　前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。（±） ②　６月下旬の発生は未確認で平年並。（±） ③　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　発病後の防除では効果が低いので、予防散布を徹底する。 ②　発病葉は二次伝染源となるため、見つけ次第剪除し土中深く埋める等適切に処分する。 ③　散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。	
褐斑病	量：やや多い 程度：少発生 （発病葉率１～10%）	①　前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。（±） ②　６月下旬の発生は未確認で平年並。（±） ③　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【ぶどう】つづき

フタテンヒメヨコバイ	量：並 程度：少発生 （被害葉率１～25%）	①　前年の発生量は平年並で越冬成虫量も平年並と推察される。（±） ②　６月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。（±） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

【かき】

円星落葉病	感染量：やや多い 感染時期：やや早い	①　前年の発生量は平年比多く、越冬伝染源量も平年比多いと推察される。（＋） ②　向こう１か月の降水量は平年比多いと予想されている。（＋）
チャノキイロアザミウマ	量：並	①　６月下旬の被害果発生は未確認。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている（±）
カキクダアザミウマ	量：並	①　６月下旬の被害葉発生は未確認。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
果樹カメムシ類	量：並	①　予察灯での誘殺数は平年並～やや少ない。（±～－） ②　６月下旬に被害果は認めず平年並。（±） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている（±）

【すいか】

つる枯病	量：並 程度：少発生 （発病葉率１～25%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されている。（＋）
炭疽病	量：やや少ない 程度：少発生 （発病果率１～25%）	６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されている。（＋）
アブラムシ類	量：並～やや少ない 程度：少発生 （寄生葉率１～25%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）
ハダニ類	量：並～やや少ない 程度：少発生 （寄生葉率１～25%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）
オオタバコガ	量：並～やや多い 程度：少発生	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　フェロモントラップ総誘殺数は下越地域でやや少ない～並、新潟、魚沼地域でやや多～多い。（±～＋） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【秋冬ねぎ】

べと病	量：並 程度：少発生 （発病株率１～10%）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されている。（＋）
さび病	量：並 程度：少発生 （発病度１～５）	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）
黒斑病	量：並 程度：少発生 （発病度１～20）	①　６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されている。（＋）
軟腐病	量：並 程度：少発生 （発病株率１～５%）	①　６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）
ネギハモグリバエ	量：やや少ない 程度：少発生 （被害度 1～10）	①　６月下旬の発生量は平年比少ない。（－） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）
ネギアザミウマ	量：やや多い 程度：中発生 （被害度 11～20）	①　６月下旬の発生量は平年比並だが、多～甚発生ほ場も認められた（±～＋）。 ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）
	【防除上の留意事項】 ・発生状況に注意し、発生が多いほ場では、定期的に防除を行い、密度抑制に努める。	
シロイチモジヨトウ	量：やや多い 程度：少発生 （被害株率１～10%）	①　フェロモントラップ誘殺数は平年比やや多～多い。（＋） ②　６月下旬の被害は未確認。（±） ③　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）

【ユリ(球根養成)】

葉枯病	量：並	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されている。（＋）
アブラムシ類	量：並	①　６月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）

【その他】

【アブラナ科野菜】 コナガ	量：並	①　フェロモントラップへの誘殺数は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年比多いと予想されている。（±～－）

～　防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください　～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の 5 段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
注２：「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～　農薬は適正に使用しましょう　～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：６月１日～８月 31 日】

○ 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
○ 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
○ 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
○ 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
○ 水田で湛水して農薬を散布する場合は、７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課
電　話：0258-35-0867
ＦＡＸ：0258-35-7445
ＵＲＬ：www.pref.niigata.lg.jp/bojo

【参考】北陸地方　１か月予報（６月２９日から７月２８日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和元年６月２７日発表）

＜予想される向こう１か月の天候＞

向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう１か月の降水量は、多い確率５０％です。

日照時間は、少ない確率５０％です。

週別の気温は、１週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。

２週目は、平年並の確率５０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	３０	４０	３０
降 水 量	２０	３０	５０
日照時間	５０	３０	２０

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
１週目（６月２９日～７月　５日）	２０	４０	４０
２週目（７月　６日～６月１２日）	３０	５０	２０
３～４週目（７月１３日～７月２６日）	３０	４０	３０